

名張

醸造所開設へ市と協力

ワインの特産品化目指す

名張商工会議所(三重県重栗)は7月28日、名張市とワイン醸造所開設に向けて協力する協定を締結した。市の保有する旧国津小学校の校舎を同所が借り受け、ワインの醸造など6次産業化の推進を目指す。来年3月までに校舎の改修などを行い、来年中に醸造の開始を予定している。

今後、同市が校舎の改修を行い、3階建ての1階はワインの製造・保管施設とし、2、3階は農産品の加工や

川口会頭①と亀井市長



名張市の特産品であるブドウ



同プロジェクトの一環

起業を支援するスペースとする。施設改修費の地方創生拠点整備事業を含めた事業費約7千

万円のうち、半額を国は新組織に対し、事業計画の策定などの支援も行う。

同日に行った調印式

同所は、地域の特産品であるブドウに着目し、新たに醸造用ブドウを生産してワイン醸造を目指す「名張・ワインづくりプロジェクト」を平成26年から実施。今回の協定締結は

同所には、同所の川口佳秀会頭や同市の亀井利克市長などが参加。川口会頭は、「産業の創設や地域活性化、特に農業の6次産業化の推進につなげたい」と述べた。